

旧世田谷区立保健センター解体工事 工事延長に伴う説明会

■開催日 令和8年6月29日（月）19：00～20：00

■開催場所 世田谷区立三軒茶屋小学校 1階 多目的室

■説明会時の主なご意見・ご質問と回答（要旨）

No	ご意見・ご質問	回 答
1	シートパイル（山留）の位置変更により、北側の道路は更に狭くなるのか。	シートパイル自体は敷地境界を越えて施工しません。現在、シートパイルの施工に伴い、道路占用許可を受けて仮囲いが道路側に出ている部分がありますが、今後さらに道路側へ広がることはなく、現状の範囲内で作業を行います。
2	地下水はどの程度排水するのか。周辺地盤沈下の懸念はないのか。	ディープウエルの排水量は日常的に一定量を排水するものではなく、観測井の水位や現場内の湧水状況を確認しながら調整します。地盤沈下の主な要因は、地下水と一緒に土砂を吸い上げてしまうことです。今回のディープウエルでは、フィルター材を用いて、水のみを排水し、土砂を吸い上げないように対策を行います。また、観測井による水位確認のほか、周辺道路の亀裂や地盤の変化を確認し、異常の兆候があれば早期に対応する方針です。観測井内の異常な水位変動、周辺道路の変状、近隣建物への影響が疑われる兆候等を確認した場合は、排水量の調整や施工方法の見直しを含め、必要な対応を検討するなど地盤沈下が生じないように十分注意して施工してまいります。
3	家屋調査は、振動影響だけでなく地盤沈下・建物傾斜も確認できる内容なのか。外構の測量が必要ではないのか。もう一度外構の測量を含めた家屋調査してほしい。	令和7年度5月に実施した家屋調査では、各対象建物の傾斜とレベル計測をしており、また、外構につきましても塀などの隙間やクラック、地盤レベル等の計測を行い写真に記録しております。今回敷地周辺の道路レベルを追加で計測し地盤沈下の予兆を確認してまいります。
4	ディープウエルのポンプは24時間稼働するのか。騒音の懸念はないのか。	最初は24時間稼働ではなく、日中の稼働から開始する予定です。ポンプは地下深い位置に設置されるため、騒音の影響は大きくないと想定しています。ただし、稼働開始後は現地の騒音状況を確認し、生活環境への影響が認められる場合は、稼働方法、防音措置、作業時間帯の配慮等について、必要に応じて検討いたします。
5	想定より深かった地下構造物を	残置する方法も検討しましたが、今後の敷地利用

	残置する工法は検討したのか。	や次期計画への影響を考慮し、今回確認された深い部分についても撤去する方針としました。
6	地盤沈下対策としてリチャージ工法（地下水還元工法）は検討したのか。	今回の計画ではシートパイルを不透水層（水を通しにくい地層）付近まで根入れし、現場内の地下水を管理しながら排水する考え方であるため、リチャージ工法の必要性は高くないと判断しました。また、土砂を吸い上げないようにフィルター材を適切に設置し、水のみを排水することで地盤沈下リスクを低減する方針です。なお、排水にあたっては観測井による水位管理や周辺地盤の状況確認を行い、状況に応じて排水方法を調整しながら進めます。
7	地盤沈下等が発生した場合の保険はどうなっているのか。	地盤崩壊特約に加入しています。周辺地盤や近隣建物への影響が確認された場合は、原因関係を確認したうえで、保険契約の内容に基づき対応を検討します。なお、保険の適用可否および補償範囲については、個別の事象や保険会社の判断によります。
8	シートパイルの根入れ長さ（地面の中に埋め込まれている長さ）4.35mの根拠は何か。	シートパイルは、現場内への地下水流入を抑えるため、水を通しにくい不透水層まで根入れする計画です。また、シートパイルに作用する土圧や耐力を計算し、必要な根入れ長さとして4.35mを設定しています。
9	客土で埋め戻した後、地下水はどうか。	土で埋め戻した後、シートパイルを引き抜く計画でいますで、地下水は地盤の中で元に戻ると想定しています。
10	地下水はGL（現在の地面の高さを基準にした深さ）一何mから出てきているのか。またN値（地盤の硬さの目安となる指標）はいくらか。	GLー4mから出てきています。 既存建物の底でN値は50～70です。
11	工事時間は平日の何時から何時までか。朝の騒音が気になる。以前、建物に設置にされていた防音壁を設置することは難しいのか。	工事時間は原則として平日8時～17時までです。以前設置されていた防音壁については、建物解体前は建物に支持させる形で設置していましたが、現在は支持する建物が無くなっているため、同様の防音壁を再設置することは難しいです。